



第3編 とやま夢構想

1. 世界のものづくり拠点 構想
2. 医療・健康・福祉のリーディング拠点 構想
3. 富山がリードする食と農の王国 構想
4. 文化・知の交流のハブ 構想
5. 環境トップランナーとやま 構想
6. 世界の宝「立山・黒部」発信 構想
7. 豊かな海と水の王国とやま 構想



とやま夢構想

～未来にはばたく7つの夢づくり～

この計画では、目標年次を2021（平成33）年度に設定し、各分野において政策を着実に展開していくこととしています。計画期間（10年）よりもさらに長期的な展望に立ち、県民の皆さんが将来への希望を持てるような、夢のある構想を描いていくことも重要です。

このため、「第3編 とやま夢構想」では、「第2編 基本計画」の60の基本政策の取組みも踏まえつつ、20年から30年後における富山県の姿、県民の生活がどのように発展・充実しているかをイメージできるような、富山県の将来への飛躍につながる夢のあるストーリーを、「夢構想」として提示します。

この夢構想のテーマについては、20年、30年後の富山県の飛躍・発展という観点から、①先進的なものづくり、②先駆的な医療・健康と共生社会、③豊かで安心できる食、④活発な文化・学術交流、⑤快適な環境・まちづくり、⑥雄大な立山・黒部、⑦豊かな水・富山湾の7つの分野を選定しました。

これらの構想に盛り込まれているそれぞれの取組みに関しては、計画期間内には技術的、財政的な制約などから実施が困難と見込まれるものの、将来的に、技術革新の進展や具体化に向けた様々な条件整備等が行われれば実現できると考えられるものをあげています。また、取組みの実現にあたっては、県だけではなく、国、市町村、企業、団体、そしてチャレンジ精神旺盛な多くの県民など様々な主体が、それぞれの役割を発揮していくことが期待されます。



1. 「世界のものづくり拠点 構想」 ～知恵と技を活かす～

- 世界のものづくり拠点の形成
- 陸・海・空の総合的交通網によるシームレスアジアの実現
- 国際ビジネスフロンティアの育成

2. 「医療・健康・福祉のリーディング拠点 構想」 ～健やかに生きる～

- 医薬品産業とライフサイエンスの拠点づくり
- 「みらい地域ホスピタル」の形成
- とやま次世代共生社会の追求

3. 「富山がリードする食と農の王国 構想」 ～食を育む～

- 「世界の食料基地とやま」の形成
- 最先端農林水産業の推進
- 食と農の王国の魅力発信

4. 「文化・知の交流のハブ 構想」 ～世界とつながる～

- 富山発 世界の文化交流拠点
- 環日本海・アジア 知のネットワーク形成
- 世界に通じる人材の宝庫
- 世界のビジネスパーソンの集う街

5. 「環境トップランナーとやま 構想」 ～快適に暮らす～

- とやま型エコライフスタイルの推進
- 再生可能エネルギー技術の開発
- スマートシティの形成
- 快適環境空間の形成

6. 「世界の宝「立山・黒部」発信 構想」 ～宝を磨く～

- 立山・黒部の文化発信拠点の形成
- 「世界の山岳観光地」の形成

7. 「豊かな海と水の王国とやま 構想」 ～豊かな海・水を活かす～

- 「不思議の海 富山湾」プロジェクトの推進
- 環日本海・アジアにおける海洋観光地域の形成
- 「水の王国とやま」の発信

1

世界の ものづくり拠点 構想

～知恵と技を活かす～

趣旨

グローバル化の進展や中国、ロシア、東南アジア、インドなど環日本海・アジア地域の経済成長がこれからも続くことが見込まれるなか、本県ものづくり産業は、これら新興国をはじめとした世界の成長エネルギーを取り込みながら、国際社会での存在感を高め、大いに発展していくことが期待されます。また、北陸新幹線の開業や高速道路ネットワーク、空港・港湾の整備充実により、本県の広域的な交通・物流ネットワークは、飛躍的に向上し、国内外との交流の活性化が一層見込まれています。

今後、本県のポテンシャルを大いに活かしながら、環日本海、アジア、さらには世界へと視野を広げ、県内の研究開発拠点・高付加価値拠点の強化による次世代技術、最先端技術の開発の推進、環日本海・アジア地域のゲートウェイ機能のさらなる充実、活発に国際ビジネスが行われる基盤の整備などを通じ、世界のものづくり拠点として発展することを目指します。

主な取組み

世界のものづくり拠点の形成

■世界の試作品・先端材料の研究開発拠点の形成

- ・「富山県ものづくり研究開発センター」を核とした、世界中の企業・研究機関が集う、試作品・先端材料の研究開発拠点の形成
- ・県立大学の研究成果を活かした、世界をリードするホワイトバイオ技術の研究開発拠点化（酵素反応や微生物発酵などを活用した有用物質の大量生産の実現など）

■世界が欲しがる次世代技術の開発

- ・世界最先端の材料・部品の開発による次世代モビリティ（移動体）の生産拠点の形成
- ・国際競争の最前線を牽引する、次世代航空機クラスターの構築（超低燃費で高性能の環境配慮型航空機の開発など）
- ・次世代化学にプラントの開発（異なる機能のスーパーマイクロ化学チップを組み合わせ、DNAやタンパク質、オーダーメイド製薬の多品種少量生産が可能）
- ・産業用・家庭用次世代ロボットの開発（無人工場を可能とするロボット、人工知能を備えた産業用・家庭用ロボット、小型健康管理ロボット等の開発）
- ・体内に埋め込んだセンサにより、健康状態の管理、がんなどの病気の早期発見が可能な医療システムの開発

■環境に配慮した先端技術の開発

- ・省エネで二酸化炭素排出量が少ない超電導モーター船の開発・普及
- ・植物などのバイオマスを原料とした、環境に優しいバイオプロセスによる工業原料生産技術の開発

陸・海・空の総合的交通網によるシームレスアジアの実現

■環日本海・アジアの拠点港湾 伏木富山港

- ・ユーラシア大陸横断物流ルートの活発化と北東アジア物流回廊の形成（シベリア鉄道を活用した鉄道・船舶の複合一貫輸送の定時・高速化、中国やモンゴルなどの鉄道も組み合わせた物流網の実現）
- ・超高速輸送船によるコンテナ定期便の就航
- ・伏木富山港の荷役24時間自動化などによる、アジアの拠点港湾化（高速交通網を活かした3大都市と環日本海・アジアの結節点）

■「いつでも行ける」国内外とのビジネスネットワークの形成

- ・環日本海・アジアの拠点都市との海外定期航空路のデイリー化
(中国10都市へのデイリー便就航など)
- ・富山空港におけるプライベートジェットの就航
(国際プライベートジェット専用ターミナルの整備など)

国際ビジネスフロンティアの育成

■国際ビジネス基盤の形成

- ・世界の市場として発展著しいインドや東南アジアなどのほか、アフリカ等の新興国も視野に入れた海外販路開拓サポートデスクの充実
- ・世界中から企業・NPOが集積する「国際ビジネスパーク」の形成
(地理的優位性や高い技術力を活かした県内における海外企業の集積拠点)

■高度先端技術の海外進出の促進

- ・アジア、アフリカなどの新興国輸出に向けた小型衛星の開発・製造
(資源探査、環境保護、災害対策、作物収穫予測、漁場の推定などに活用する小型衛星)
- ・環境に配慮した先端材料(炭素繊維、複合材料など)の低コスト化による生産・輸出

2040年頃の富山県のイメージ ①

伏木富山港は、シベリア鉄道を活用した鉄道・船舶の複合一貫輸送「ユーラシア大陸横断物流ルート」の形成により、国内大都市圏から極東ロシアや中国を経由してヨーロッパまでを結ぶ物流ルートの結節点として発展を遂げており、コスト・サービス共にアジア主要港を凌ぐスーパー拠点港として世界中からモノが集まっています。富山空港からは、中国主要10都市やハノイ、シンガポール、デリーなどへのデイリー便が就航しているほか、プライベートジェットでの利用も容易となり、いつでも気軽にビジネスや観光などで海外との行き来ができるようになりました。

こうした利便性を活かし、試作品・先端材料の研究開発拠点である「富山県ものづくり研究開発センター」を中心に国内外から多くの企業・研究機関が集まっており、最先端の技術開発が行われています。富山県が誇る次世代自動

車や次世代航空機の技術を活かし、生産工場の立地も着々と進んでおり、安定した雇用が確保される環境が整っています。国際ビジネスパークは、国際的な企業や、国境を越えて産業の一翼を担うようになったNPOなど、多くの国の人たちが賑わっています。



趣旨

本県は今後も高齢化が進展し、およそ15年後には高齢者の割合が3人に1人を超える超高齢社会を迎えることが見込まれます。こうしたなか、本県は、300年以上の歴史と伝統を有する医薬品産業の近年の大躍進や、世界の薬都スイス・バーゼルとの交流、医薬・バイオ分野での研究開発、充実した周産期医療やがん診療体制、全国に先駆けて整備・普及が進む地域共生型福祉拠点など、医療・健康・福祉の分野で、非常に高いポテンシャルを有しています。

こうした本県の優れた基盤を活かし、医薬品やライフサイエンスの分野における世界的な研究開発・生産拠点の形成を図るとともに、地域での医療の充実や共生社会づくりにより、身近な地域において健康で安心して暮らし続けることができる県づくりを進め、国内外に誇れる医療・健康・福祉のリーディング拠点として発展することを目指します。

医療・健康・福祉の リーディング拠点 構想

～健やかに生きる～

主な取組み

医薬品産業とライフサイエンスの拠点づくり

■世界に誇るライフサイエンスの研究開発拠点

- ・「くすりの富山」の歴史や県薬事研究所の研究成果を活かした、バイオ・医薬・健康関連製品の世界的な研究開発拠点の形成
- ・製造技術力や製剤開発力を活かした世界に通用するスペシャリティファーマの集積
※スペシャリティファーマ：得意分野において国際的にも一定の評価を得る研究開発力を有する新薬開発企業
- ・最先端の医療、医薬品、医療機器の研究開発の推進
 - 医療 …アルツハイマー型認知症の予防・治療、免疫療法、iPS細胞による再生医療、遺伝子治療など
 - 医薬品 …県薬事研究所の白樺成分ベツリンの研究成果を活用した副作用の少ないがん治療薬、バイオ医薬品など
 - 医療機器…生体センサ、カプセル内視鏡、手術用ロボットなど
- ・未病診断薬を使った遺伝子診断の普及
(病気予防が可能となり、健康長寿100歳が一般化)

■世界に広がる富山のくすり

- ・薬用植物のブランド化や和漢薬の学術拠点の形成、伝統医薬の世界的な情報ネットワークの構築
- ・配置薬システムの世界展開(途上国などでの配置薬の普及)

■世界から人が集う健康・福祉の地域づくり

- ・外国人観光客向けヘルスツーリズムを組み込んだ旅行商品のアジアにおける爆発的な人気による富山ブーム化
(高度医療機関、健康増進施設、くすり関連施設、温泉施設、飲食店等が連携)

「みらい地域ホスピタル」の形成

■ICTを活用した先端的な地域医療・健康づくりの推進

- ・バーチャルリアリティ技術による遠隔医療の定着
(医師が遠隔地の患者と直接向き合っているかのように、聴診器をあてたり、触診したり、口臭・体臭などを感じたりできる遠隔診察システムなど)
- ・電子健康手帳、生涯電子カルテの開発
(医療機関とスポーツクラブ等の地域の健康施設が、個人の健康・治療情報を共有)
- ・テイラーメイド型の健康管理の実施

(飲み込み型カプセル、個人別配合医薬品、住宅内の床埋め込み式身体情報感知装置など)

とやま次世代共生社会の追求

■切れ目のない支援サービスの提供

- ・医療・福祉の切れ目のない提供、ターミナルケア(終末期医療・看護)の充実などによる、だれもが地域で終末期まで生活できる環境の実現
- ・困ったときにいつでも利用できる、見守り・相談、サービスの提供などを行う総合的ワンストップサービスの一般化

■暮らしの安心確保のための技術開発

- ・いつも側にいる見守り・生活支援ロボットの普及
(要支援者・支援者双方の介護負担を軽減する生活支援・介護ロボット、一人暮らし高齢者を見守る「孫型ロボット」、ロボットタイプベッドなどの開発)
- ・高齢者などに対する見守り機能を持った住宅の普及
- ・高齢者や障害者、子どもなどが外出時も安心な、見守り・緊急連絡機能を持ったウェアラブル機器(腕時計型など身につけられる機器)の開発

2040年頃の富山県のイメージ ②

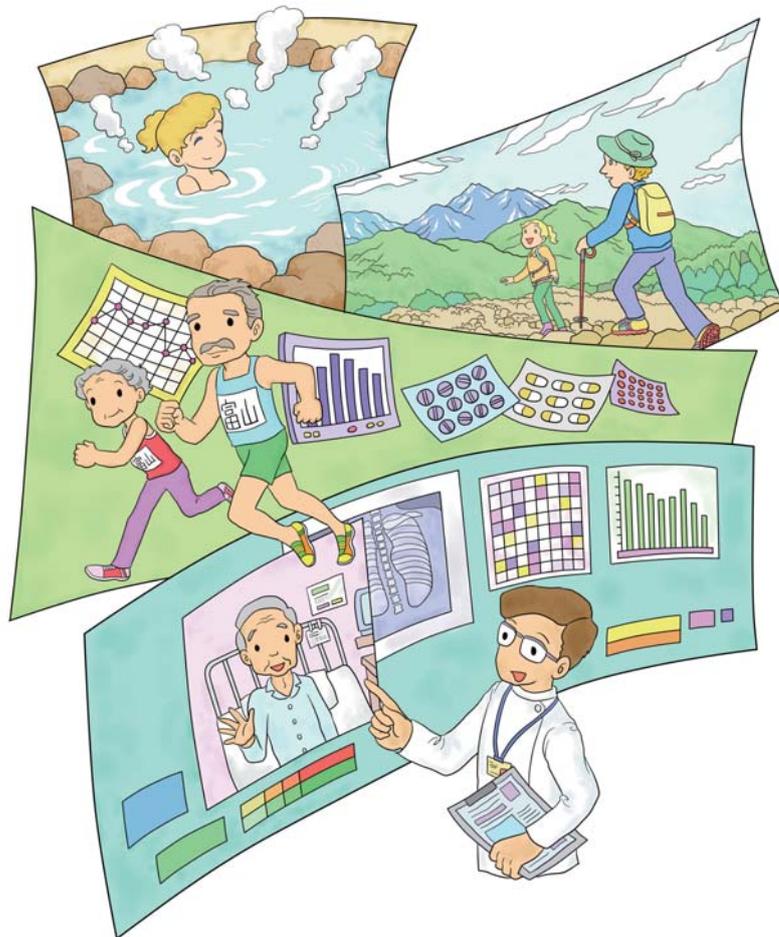
飲み込み型カプセルにより、毎日の健康状態が把握できるほか、電子健康手帳により、日常的に医療機関やスポーツ施設などで健康指導や相談が受けられます。さらに、未病診断薬を使った遺伝子診断の普及により病気予防が可能となり、100歳を超えても健康で元気な高齢者がいたるところでいきいきと活躍しています。

県薬事研究所の白樺成分ベツリンの研究成果により開発された、副作用の少ないがん治療薬が世界中に普及しており、こうした「くすりの富山」の伝統を活かしつつ、温泉やトレッキング、エステなどを組み込んだ外国人観光客向けの旅行商品が爆発的な人気となり、アジアでの富山ブームに一役買っています。

医師が遠隔地の患者と直接向きあっているかのように、聴診器をあてたり、触診したりできる遠隔システムが整備

され、地域の医療格差や医療従事者の不足が緩和されています。

これらに加え、医療・福祉サービスが切れ目なく提供されており、みんなが安心して暮らしています。



3

富山がリードする 食と農の王国 構想

～食を育む～

趣旨

我が国の農林水産業を取り巻く環境は、従事者の高齢化や安価な輸入品との競争激化など非常に厳しくなっています。また、消費者の食品に対するニーズは、価格だけでなく、衛生的で安全なものを求めるなど多様化が進んでいます。

本県は豊かな食を育む農地や富山湾を有し、米、魚、特産品等、全国に誇りうるおいしい食材も豊富にあります。今後も、これらを十分に活かし、本県の食材が国内外に通用する製品となるよう、戦略的な食品や生産・流通技術の開発、安全かつ衛生的な生産の促進、ブランド化や農産物の輸出等に取り組みます。あわせて、環境問題や地域活性化、世界的な食料問題への対応など多様な観点から農林水産業をとらえ、他分野との連携を図りながら積極的にこれらの問題解決に貢献していきます。

主な取組み

「世界の食料基地とやま」の形成

■食料の安定生産技術の開発

- ・新たな加工適性や、機能性（脂肪蓄積抑制や高ビタミンなど）、耐高温性など優れた特性を持つ、米（ポストコシヒカリ、米粉に適した米など）、野菜等の新品種の開発
- ・医療・健康産業との連携による食品の高機能化（抗アレルギー、特定栄養素の高い食品など）に関する研究

■世界に向けたブランド品種の開発・販路開拓

- ・チューリップの遺伝子資源を活用した花期の長い品種の開発や、県農林水産総合技術センターで開発した青いチューリップなど希少性の高い品種の大量生産の実現
- ・凍結・冷蔵技術の開発による富山ブランド農産物・食品の海外輸出の推進（米、野菜、花き、果物、水産物、酒など）
- ・種籾の優良遺伝子資源を活用した多収穫米の開発や、品質・収量の安定したオーダーメイド型種籾の生産・輸出など「種籾王国とやま」としての世界食料危機への貢献

最先端農林水産業の推進

■最先端の農業技術開発の推進

- ・ICTやセンシング技術、ロボット技術による農産物・水産物の高度生産管理システムの開発
- ・熟練農家が保有している優れた農業技術や判断力を短期間で習得できるよう、情報の蓄積・共有を行うAI（農業情報科学）農業の導入促進
- ・少ない耕作面積で生産を可能とするマイクロファームの技術開発
- ・安全で衛生的な植物工場による農業生産の実施と、植物工場に適した小型野菜の開発

■資源・環境配慮型の農林水産業の確立

- ・海洋衛星、海洋観測装置を活用した水産資源管理型漁業の実施
- ・農林畜産廃棄物の再生エネルギー化など環境配慮型農業の実施

食と農の王国の魅力発信

■食と農による賑わいづくり

- ・富山県産の地場野菜・果物や伝統的調理方法を使った越中料理の世界展開
- ・外国人によるグリーンツーリズムや海外からの定住・半定住の推進

・新幹線などを活用した「週末は富山で米づくり」が大ブームを呼ぶなど、都市住民の二地域居住の拡大

■食と農を活用したビジネスの推進

- ・世界各国の日本食レストランとの個別取引の拡大や、富山の野菜・フルーツを活かしたとやまスイーツの世界ブランド化による年商1億円農家の増加
- ・産地、流通経路、生産・流通に係る二酸化炭素排出・吸収量など食品に関する多様な情報が、手に取るだけで分かる高度トレーサビリティ技術の開発

2040年頃の富山県のイメージ ③

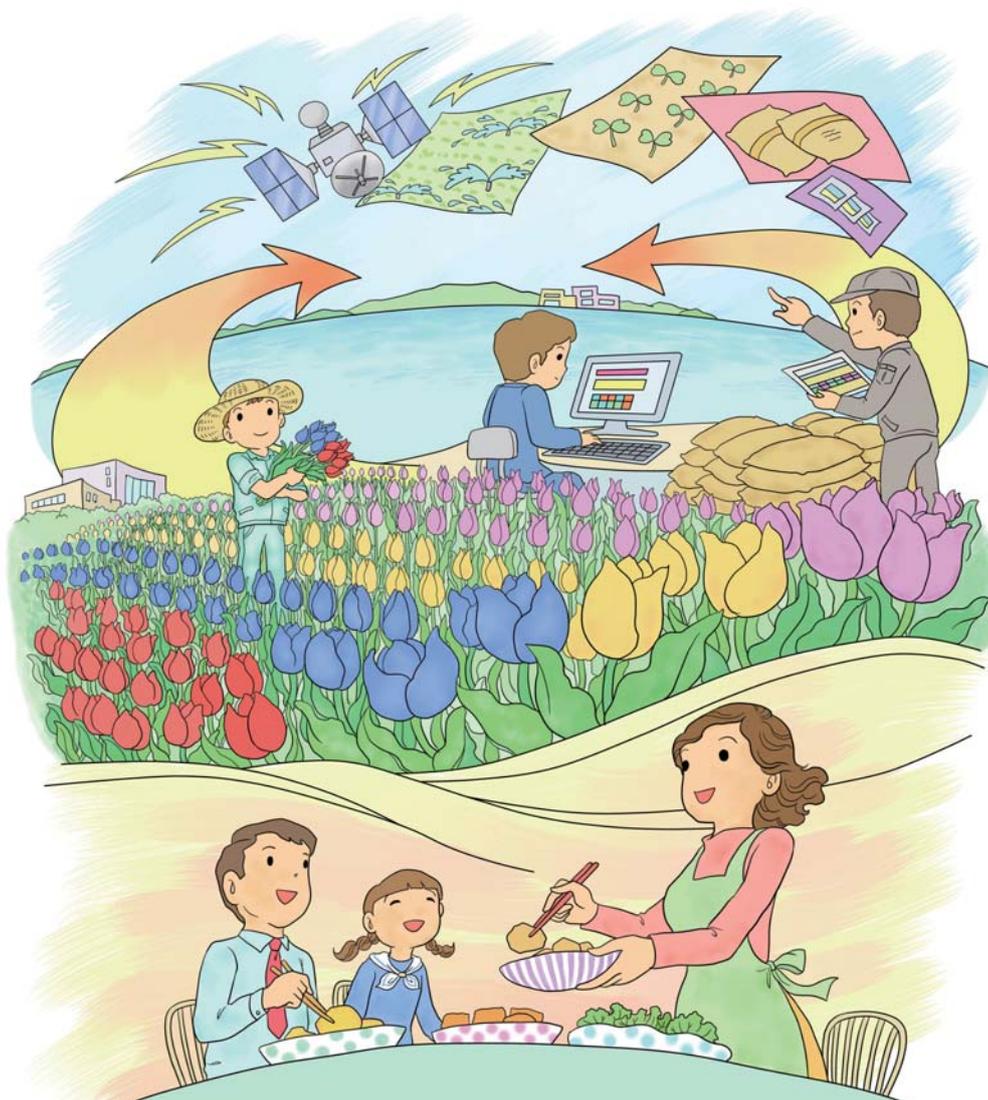
脂肪蓄積抑制や抗アレルギー、高ビタミンなど、機能性の高い米や野菜の品種が数多く導入され、個人の健康状態に応じてこれらの農産物を活用した食事が提供されるなど、人々の健康増進に役立っています。

県農林水産総合技術センターが開発した青いチューリップなどの富山オリジナルチューリップ品種は、大量生産が実現し世界各国へ輸出されています。また、品種・収量の安定したオーダーメイド型種子が食料不足に悩む地域へ輸出され、世界食料危機への貢献が進

んでいます。

こうした農作業は、衛星によるリモートセンシングにより、常に作物の生育状態が把握されており、水やりや追肥は自動管理や遠隔操作により行われています。

世界の食材産地・富山で作られた農産物を使った越中料理や農業体験などを組み込んだグリーンツーリズムが活発化し、国内外から多くの人が居住・滞在しています。



4

文化・知の 交流のハブ 構想

～世界とつながる～

趣旨

本県は、従来より、東アジアを中心とした国際観光や経済交流、世界的な舞台芸術をはじめとする国際文化交流など様々な分野で、国内外との交流が活発に行われています。また、北陸新幹線や高速道路など高速交通網の整備が進むとともに、富山空港や伏木富山港の機能が着実に充実強化されており、これらを活かした環日本海・アジア交流の一層の進展が見込まれています。

今後は、こうしたこれまで培ってきた優れた基盤を大いに活かし、文化、観光、教育、県民生活、企業活動など様々な分野で国内外の人々とのつながりを形成・強化し、富山県が世界における文化・知の交流の中核として発展していくことを目指します。

主な取組み

富山発 世界の文化交流拠点

■世界をリードする芸術拠点の形成

- ・世界中の演劇人から注目を集める演劇の聖地・利賀を核とした、グローバルな舞台芸術拠点の形成・発展
- ・「とやま世界こども舞台芸術祭」、美術や音楽に関する子どもたちの国際的な芸術祭の開催などを通じた、世界の子どもが集う芸術文化拠点の形成
- ・「とやま世界青少年アートキャンプ20XX」の開催
(世界5大陸から若手美術家が富山県に集い、美術作品の制作や美術展を開催、これからの世界の美術界を担うアーティストを発掘)

■とやま文化の世界展開

- ・デザイン性に優れた富山の伝統工芸ブランドの海外展開
(デザイン交流のあるミラノ等に販売直営店が進出)
- ・富山発「クール・トヤマ」でアニメや漫画のコンテンツ作成拠点の形成
(散居村を活用したアニメ・ヴィレッジの形成、東海北陸自動車道～能越自動車道沿い(南砺～氷見)におけるアニメツーリズムのメッカ形成)
- ・本県の風景などを最大限に活かした「とやままるごと映画村」(「高志の国ウッド」構想)による、国内外からの映画ロケの誘致推進
- ・富山バーチャルミュージアムの実施
(富山の伝統芸能や自然風土、県内美術館の収蔵品等について、仮想空間の中で映像、音、においなどを臨場感をもって鑑賞、体験でき、国内外に広く発信)
- ・高志の国文学館における世界の文学館とのネットワーク化を通じた越中万葉をはじめ富山の文芸の世界への発信と交流の拡大

環日本海・アジア 知のネットワーク形成

■知のネットワーク形成の推進

- ・環日本海・アジア大学機構の設立による県内大学と環日本海・アジア地域の大学との知のネットワークの形成
(インターネットでの単位相互認定、教員相互派遣等の実施など)

世界に通じる人材の宝庫

■グローバル人材育成システムの形成

- ・秋入学の実施や海外留学の必修化など、県内大学の国際化の推進と国際的人材の育成
- ・学生の大半を海外からの留学生が占める多文化・多言語のグローバル大学の誘致など、優秀な留学生の受入れの推進

世界のビジネスパーソンの集う街

■国際的なビジネスタウンの形成

- ・国際企業が集積する世界に開かれたビジネス街の形成
- ・人工知能、音声認識技術を活用し、日本語と外国語のコミュニケーションを即時に自動翻訳する高度自動翻訳機の開発

2040年頃の富山県のイメージ ④

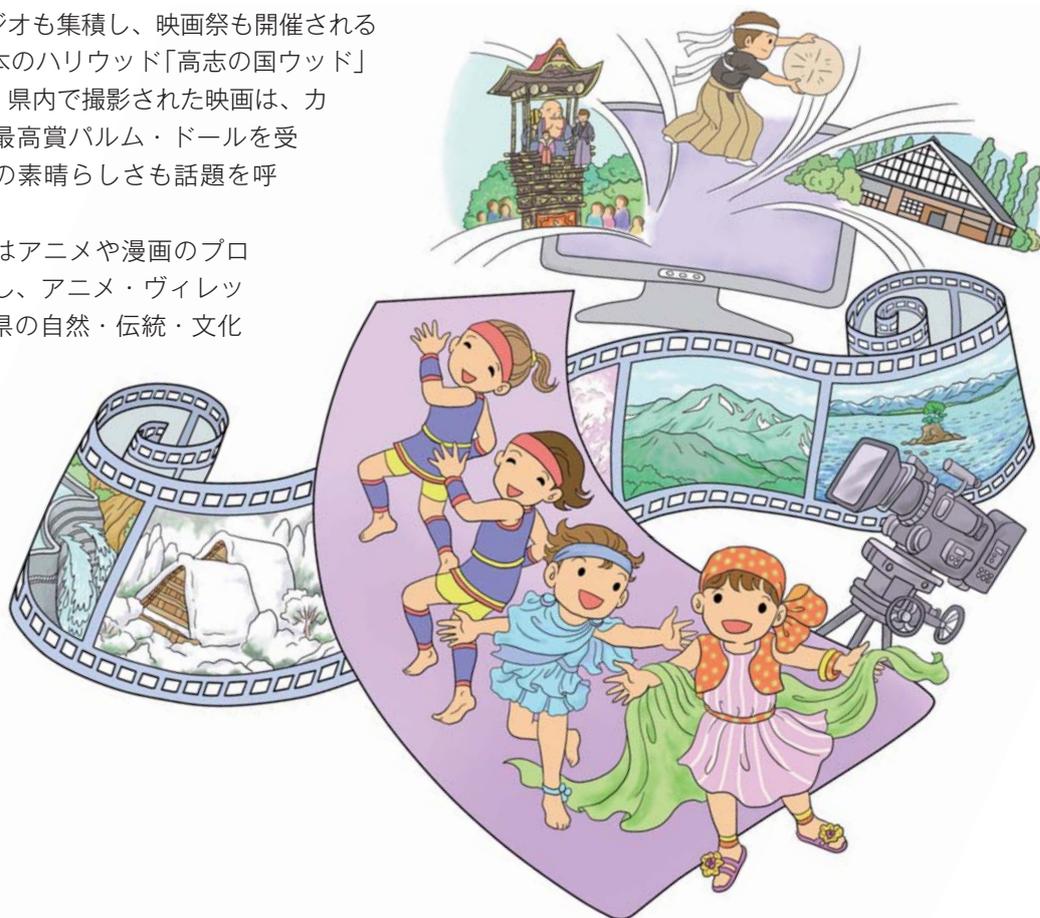
とやま世界こども舞台芸術祭は、海外からの参加団体が年々増加し、今や世界三大アマチュア演劇祭の一つとして定着しています。また、演劇の聖地・利賀を核としたグローバルな舞台芸術拠点が形成されており、世界中から多くの一流の演劇人が定着し、共同で作品を制作・上演するなど、国際色豊かで多彩な舞台芸術が富山から国内外へ発信されています。

本県の伝統・風景を最大限に活かした国内外からの映画ロケが県内各地で行われるとともに、映画のプロダクションやスタジオも集積し、映画祭も開催されるなど、富山県は日本のハリウッド「高志の国ウッド」と呼ばれています。県内で撮影された映画は、カンヌ国際映画祭の最高賞パルム・ドールを受賞し、本県の風景の素晴らしさも話題を呼びました。

また、散居村ではアニメや漫画のプロダクションが入居し、アニメ・ヴィレッジが形成され、本県の自然・伝統・文化

からインスピレーションを受けた作品が世界に発信されています。

県内大学では、すべての日本人学生が海外留学を経験しているほか、環日本海・アジア地域の大学との単位互換により、海外の著名な研究者の授業を生で聞いたり、直接研究の指導を受けに行く学生が後をたちません。また、富山県には多くの優秀な留学生が集まり、卒業後に国際ビジネスタウンで活躍しています。



5

環境 トップランナー とやま 構想

～快適に暮らす～

趣旨

本県は、全国で初めて県内全域においてレジ袋無料配布の廃止を行うなど県民総ぐるみでの環境保全活動が行われているほか、全国第2位の包蔵水力を活かした小水力発電の整備が盛んに行われるなど、環境・エネルギー分野での大きなポテンシャルを有しています。また、本州随一の植生自然度を有するなど豊かな自然環境に恵まれており、散居村や水辺のまちなど、地域の風土や伝統・文化と調和した快適な環境が受け継がれています。

今後、環境・エネルギーに関する本県のこうした「強み」をさらに磨き、環境にやさしいライフスタイルづくりを推進するとともに、環境に配慮した快適で、安心して出かけられるまちづくりを進め、県民が真に暮らしの豊かさを感じられる、世界の中の環境トップランナーとして発展することを目指します。

主な取組み

とやま型エコライフスタイルの推進

■環境・エネルギー新技術の開発・普及

- ・「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の定着
(太陽光発電、燃料電池、省エネ機器、高性能断熱構法、高効率エネルギーマネジメントなどの普及により、エネルギー消費量が事実上ゼロとなる住宅)
- ・県内全域エコカー普及の実現
(電気自動車、燃料電池自動車、水素自動車、人工光合成技術を活用したエネルギー自動車の普及)
- ・戦略的創造研究推進事業 (ERATO) の「浅野酵素活性分子プロジェクト」の研究成果による、微生物や動植物の酵素を用いた環境負荷の少ない有用物質生産技術 (ホワイトバイオテクノロジー) の普及

■いつでもどこでもエコライフの推進

- ・使用している機器の二酸化炭素排出量を、いつでもどこでも把握できる「見える化」インフラ (環境負荷の表示、環境配慮行動のアドバイスなど) の普及

再生可能エネルギー技術の開発

■地域に根差した未利用エネルギーの活用

- ・バイオマス、風力、波力、雪氷熱、地熱、地中熱などの再生可能エネルギーを用いた発電の低コスト化と実用化の推進
- ・あらゆる落差で発電できる、低コスト・高効率なスーパー小水力発電の全県展開
- ・太陽光エネルギーの電気変換効率の向上に伴う、県内における大規模な太陽光発電所 (メガソーラー) 整備の促進
(雨や雪、曇天にも強く、少ない面積でも大きな出力が得られるソーラーパネルや、複雑な表面に塗布できる色素増感型太陽電池の普及など)

スマートシティの形成

■スマートグリッドの整備

- ・再生可能エネルギーの安定供給に資するスマートグリッド (次世代送電網) の全県整備
(高性能蓄電池の導入や電気自動車の蓄電池としての代替利用などによる需給バランスの制御)

■エネルギーの地産地消

- ・マイクログリッドシステムの整備

(太陽光、水力、風力、波力、地熱、地中熱、バイオマスなど様々な再生可能エネルギーを地域レベルでベストミックス)

■環境にやさしい次世代エコタウンづくり

- ・電気自動車、水素自動車などのエコカー用スタンド等の全県的なインフラ整備
- ・工場で使用する電力をすべて再生可能エネルギーでまかなう環境負荷の少ない次世代工場団地の整備

快適環境空間の形成

■安心お出かけ空間の形成

- ・利便性の高い公共交通や自転車専用レーンの整備充実などにより、市街地への自動車流入が抑制され、安全・便利に暮らせるまちづくりの推進
- ・バス、タクシーをはじめとする交通機関のオンデマンド化の推進や、自動車側と車道側双方の高度情報化により衝突自動回避や自動運転が可能となる高度道路交通システム (ITS) の整備推進など、次世代交通システムの形成
- ・電波マーカー・携帯端末を活用した視覚障害者の歩行支援システムの整備
- ・道路付帯センサーとウェアラブル機器を活用した、子どもの緊急防犯ネットワークシステムの整備

2040年頃の富山県のイメージ ⑤

電気自動車、燃料電池自動車、水素自動車など、環境に優しいエコカーが各家庭で保有されているとともに、充電や燃料補給ができる施設が県内各所に整備され、安心して遠くまで移動できるようになっています。

また、市街地に流入する自動車の抑制や車同士の衝突自動回避システムの整備などにより、ここ数年、交通事故ゼロを達成しており、安全で快適な環境空間が形成されています。多くの人が公共交通を使って出かけることができ、自転車で通勤・通学する人も増えています。

さらに、太陽光、小水力、波力、バイオマスなど、富山の特性を活かした再生可能エネルギーによる発電が全県的に進んでおり、工場や家庭の電力を、すべてその地域内で生産された再生可能エネルギーでまかなうなど、効率的なエネルギーの地産地消が進んでいます。



6

世界の宝 「立山・黒部」 発信 構想

～宝を磨く～

趣旨

本県は、標高3000m級の立山連峰をはじめとする変化に富んだ地形を有し、とりわけ、豊かで美しく、雄大な自然や観光資源を持つ立山・黒部は、県民の誇りとして、また、国内外の人々をも魅了する世界の宝として、大切に守っていくべきものです。

今後とも、立山連峰の魅力を再発見して積極的に発信していくとともに、その保全と、観光、教育、産業など様々な分野での利活用を一層推進していきます。また、今後さらに充実が見込まれる広域交通ネットワークの活用により、東アジア、欧米、オセアニア地域など国外からも多くの人々が訪れる世界的な山岳観光地を目指します。

主な取組み

立山・黒部の文化発信拠点の形成

■立山・黒部文化の発掘・発信

- ・立山・黒部地域の世界遺産登録を契機とした世界的な観光スポット化
- ・布橋滝頂会、「宿坊」宿泊や立山山頂までの古道を巡る登山などの立山信仰の復活体験と組み合わせた、新たなパワースポット・立山の魅力発信
- ・かつて立山信仰を背景とした登山者で賑わっていた「旧立山温泉」の復元と、立山カルデラ、白岩堰堤を結びつけた「天涯ツアー」など、新たな観光資源・防災学習資源としての活用

■雄大な自然を活かしたイベントの推進

- ・「16歳までに立山登山」を由来とする「立山詣で」など、霊峰立山における全国的・国際的な子ども交流イベントの開催
- ・ツール・ド・立山、ヒルクライム立山、立山トライアスロンなど立山での国際的スポーツの開催

「世界の山岳観光地」の形成

■「自然の宝庫 立山・黒部」山岳観光プロジェクトの推進

- ・現存する日本初の「氷河」と認定された立山・剣岳の万年雪など、独特の地形・自然を最大限に活かした「世界の山岳観光地 立山・黒部」の魅力発信
- ・立山、黒部峡谷、宇奈月温泉をロープウェイなどで結ぶ周遊観光ルートの形成
- ・ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界の「アルプス」を巡る「富山発 世界のアルプスツアー」の実施や連携イベントの開催

■北アルプス周回・横断ルート構想の推進

- ・北アルプスゴールドルート（富山～高山～松本～糸魚川～富山）
- ・北アルプス横断道路（トンネル）構想の推進

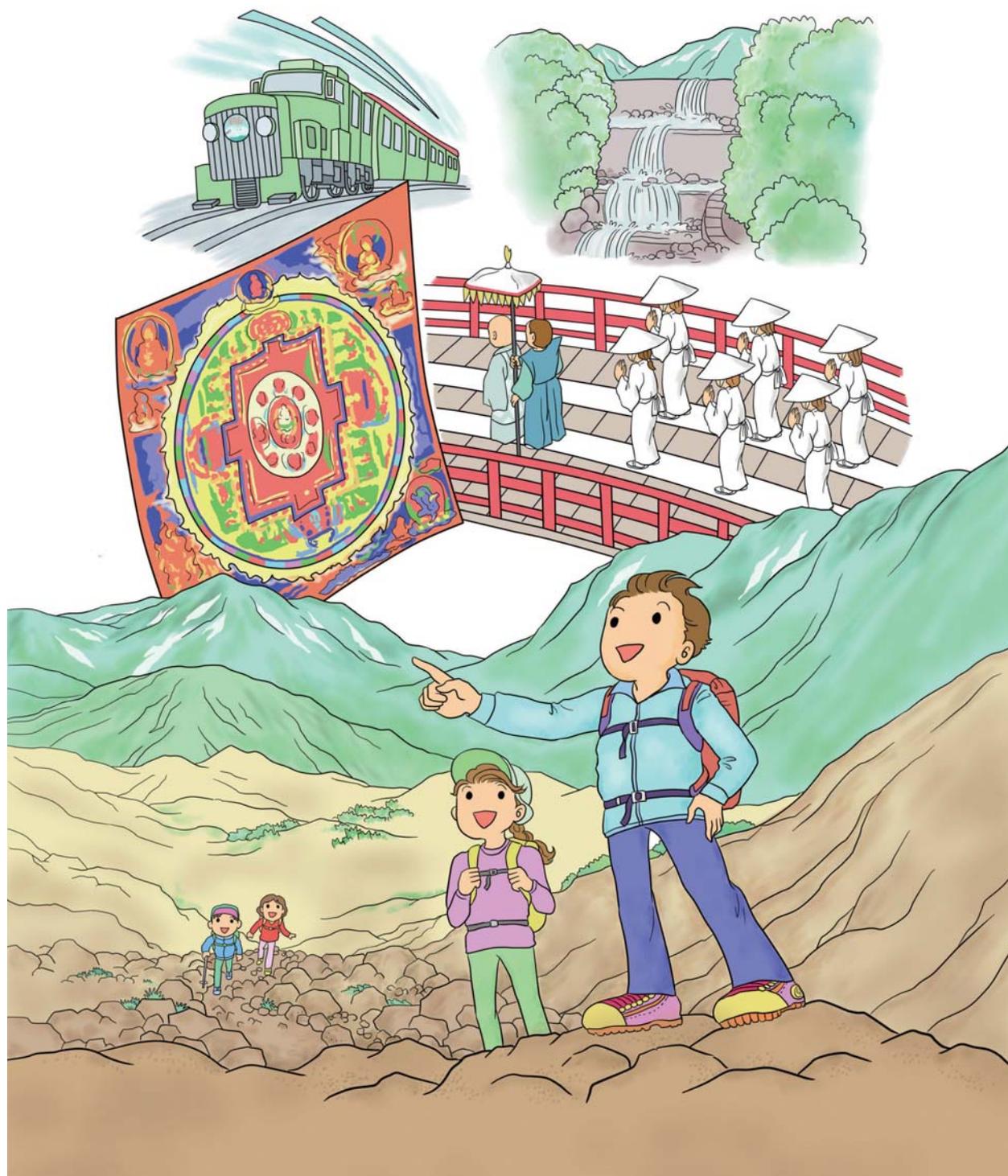
2040年頃の富山県のイメージ ⑥

立山・黒部地域の世界遺産登録を契機に、世界中から多くの観光客が訪れ、雄大な自然や砂防、電源開発の歴史を堪能しています。

また、山麓に伝わる立山信仰や布橋滝頂会、古道を巡る登山の体験など、立山の文化・魅力を詰め込んだ旅行商品が癒しを求める人々のニーズとマッチし、国内外で大人気となっています。さらに、国内

で唯一の立山連峰の氷河を巡るツアーも人気を博しています。

北アルプスを周回できるルートが整備され、世界の「アルプス」を巡る国際ツアーの中でも最も魅力的な観光コースとして山岳観光愛好者の憧れの地となっています。



7

豊かな海と水の 王国とやま 構想

～豊かな海・水を活かす～

趣旨

水深1000mの深海を有し、日本海最大の外洋性の湾である富山湾は、深層水などの海洋資源に恵まれているだけでなく、広大な海洋観光空間としての活用など無限の可能性を有しています。また、本県はかねて「水の王国」とも呼ばれており、天然のダムともいえる山々からは1年を通じて豊かできれいな水が生まれ、県民の暮らしや産業を支える重要な資源となっています。

こうした豊かな海と水に恵まれている本県の可能性を存分に活かし、豊かで清らかな水資源を大切に守り、その魅力を積極的に発信するとともに、富山湾の特徴を活かした海洋観光の振興や海洋資源の活用など、観光・産業・健康など様々な分野での利活用を一層推進し、世界的な「海と水の王国」を目指します。

主な取組み

「不思議の海 富山湾」プロジェクトの推進

■未知の水産資源の探索

- ・富山湾の深海にすむ魚や微生物など、珍しい海洋生物の調査の推進と海洋生物多様性の確保

■富山湾の恵みを活かした産業展開

- ・深層水の知られざる効能の全容解明と、それを利用した健康・ライフケア製品やサービスの世界展開
- ・「天然のいけす」富山湾を活かした「とやま海洋牧場」の造成
※海洋牧場：網や柵で囲う代わりに人工の漁礁と自動音響給餌機（魚を音で呼び集め、餌を自動で与える機械）を用いることで、沖合など広い海のフィールドに安定した漁場を作り出すもの
- ・深層水を活用したサクラマス完全養殖など、世界も注目する栽培漁業技術開発の推進
- ・突発的な強い潮の流れ等による被害防止のための定置網移動システムの開発
- ・魚が自ら入りたくなる誘引装置を備えた定置網システムの開発

■富山湾未利用エネルギーの活用

- ・将来の天然ガス資源として有望視されている「燃える氷」メタンハイドレートの活用研究
- ・富山湾の波による海面の上下運動や潮流を利用した波力エネルギー発電、深層水と表層水との温度差エネルギー発電の推進
- ・二酸化炭素を海中や海底下に固定する技術の確立
- ・富山湾の海藻を活用したバイオ燃料生産による、燃料の地産地消の推進

環日本海・アジアにおける海洋観光地域の形成

■世界から注目されるクルーズの振興

- ・地中海クルーズと人気を二分する環日本海クルーズの振興
- ・富山湾の生き物を探訪する「富山湾海中・海上エコクルーズ」の実施

■多彩な富山湾観光の展開

- ・富山湾蜃気楼発生装置の開発による蜃気楼観光の振興
- ・新湊大橋をはじめとする富山湾岸道路を活用した「海の道」パノラマ観光の推進

■とやま水辺の回廊づくり

- ・人々の憩いの場である松川と富岩運河、さらには岩瀬までを結ぶ富岩水上ラインのデイリー運行（市民の足として活用）

■水資源を活用したビジネス展開

- ・安全でおいしい「とやまの水」の世界展開
- ・浄化技術の海外輸出などによる水ビジネスの推進、世界の水資源問題への貢献
- ・豊かな地下水を活用したヒートアイランド対策

2040年頃の富山県のイメージ ⑦

環日本海クルーズは、ウラジオストク、サハリン、釜山、上海など、多くの都市に寄港しており、アジアのみならず欧米からも数多くの観光客が参加し、地中海クルーズと人気を二分しています。とりわけ、観光客に人気が高いのは、「とやま海洋牧場」で捕れた、天然同様の新鮮な魚を使った料理です。海洋牧場や画期的な栽培漁業技術などにより、富山湾のおいしい魚は安定的に供給されており、観光客に食されるだけでなく、国外へも輸出されています。

一方、富山湾の波による海面の上下運動や潮流を利用した波力エネルギーによる波力発電所の建設や、富山トラフに沿った海底に豊富な埋蔵が確認された「燃える氷」メタンハイドレートの採掘が進むなど、富山湾の未利用エネルギーの活用が進んでいます。

また、世界中で「とやまの水」が流通し愛飲されているほか、アジアやアフリカなどで富山の水技術を使った水道水の供給が行われています。

